

インターバンクの声（2016年1月14日）

昨日、東京時間の午前中に発表された12月の中国貿易収支が市場の予想以上に強い内容になったことで、中国上海株、日経平均株価、さらには為替市場もドル円を中心に落ち着き始める気配を見せていたが、その見方は欧米市場で脆くも崩れてしまった。それでもニューヨーク市場の中盤までは、アジア市場の落ち着きを維持できていたが、米石油在庫統計で在庫が増えていることが確認されて原油価格が再下落に転じると様子がおかしくなってしまった。そろそろドル円を買ってみようかと思っていたファンド勢なども再び待ちの姿勢に戻ってしまったようだ。まだまだ中国経済の先行きに対する不安感も市場心理には影響しているが、それよりも今回の相場の混乱は、どうも原油価格が余りにも安くなっていることが大きな元凶のようだ。市場の中には、バレル10ドル台にまで下げようとする予想も出始めており、30ドル台後半にまで価格が回復してこないようであれば、今年の株価、金利、為替の年間予想を改めて見直す必要もありそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。